

### 3 年齢階級別の自殺者数の推移

年齢階級別の自殺者数の推移について、自殺統計をみると（第1-5図）、全体的に減少傾向にあり、60歳以上（注）が最も多く、40歳代、50歳代の順に多くなっている。

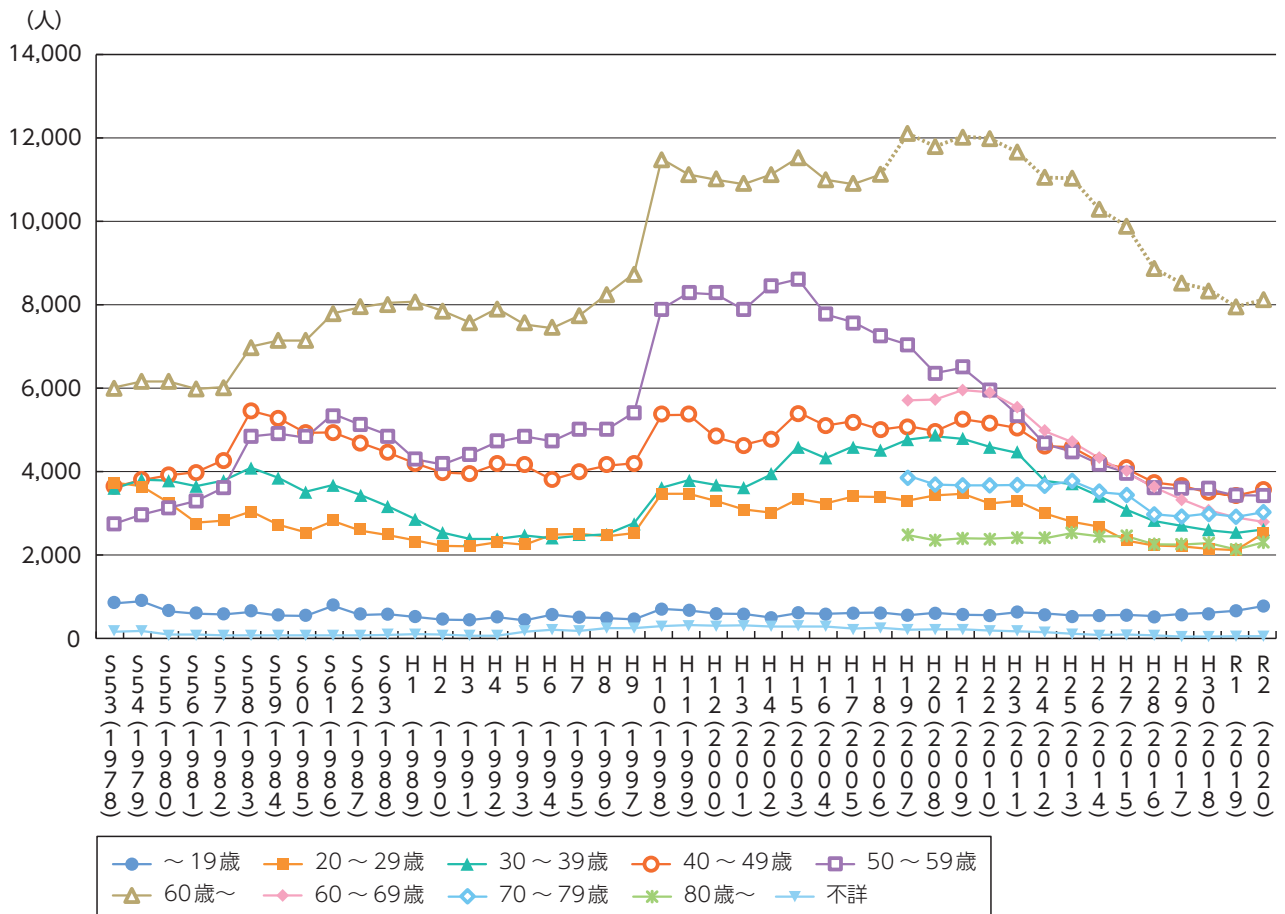
年齢階級別の自殺死亡率の推移をみると（第1-6図）、平成10年の自殺者数急増に伴い自殺死亡率も上昇したが、近年は全体的に低下傾向にある。

特に、40歳代、50歳代、60歳以上は、ピーク時から大幅に低下している。一方、20歳未満では平成10年以降おおむね横ばいで推移していたが、近年上昇傾向にある。20歳代や30歳代は、ピーク時から低下がみられるものの、減少率は40歳代以上と比べて小さくなっ

ている。また、40歳代、50歳代、60歳以上は、急増以前の水準より低下している一方、20歳未満及び20歳代は急増以前の水準に戻っていない。特に、20歳未満は近年上昇傾向にある。

さらに、男女別にみると、男性は、40歳代、50歳代では15年まで上昇傾向にあったが、16年以降は低下傾向にある。一方、20歳代が一貫して上昇していたが、23年以降は低下傾向にあり、30歳代は15年に更に高まった後、そのまま高止まりしていたが、22年以降は低下傾向にある。女性は、20歳代、30歳代、40歳代では上昇傾向にあったが、24年以降は低下傾向にある。

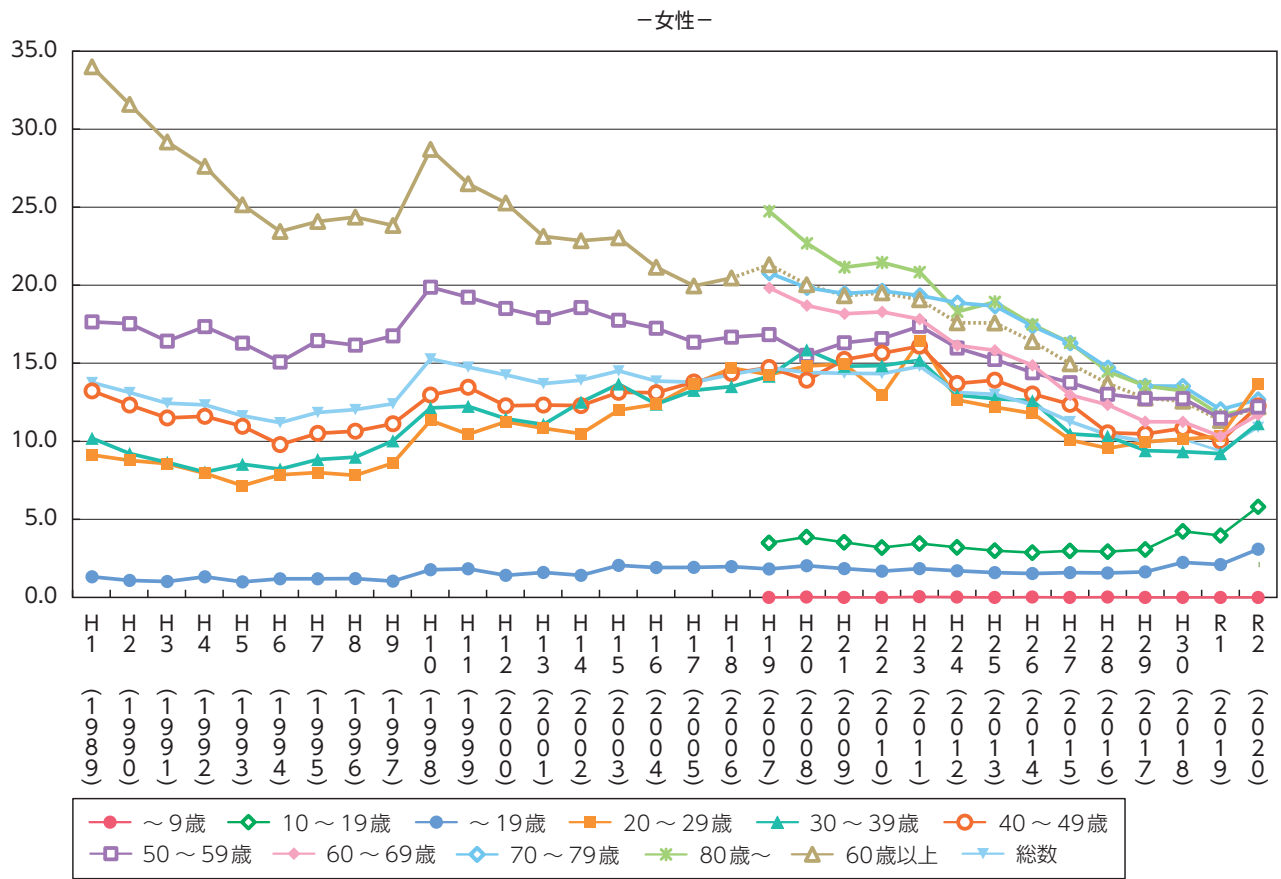
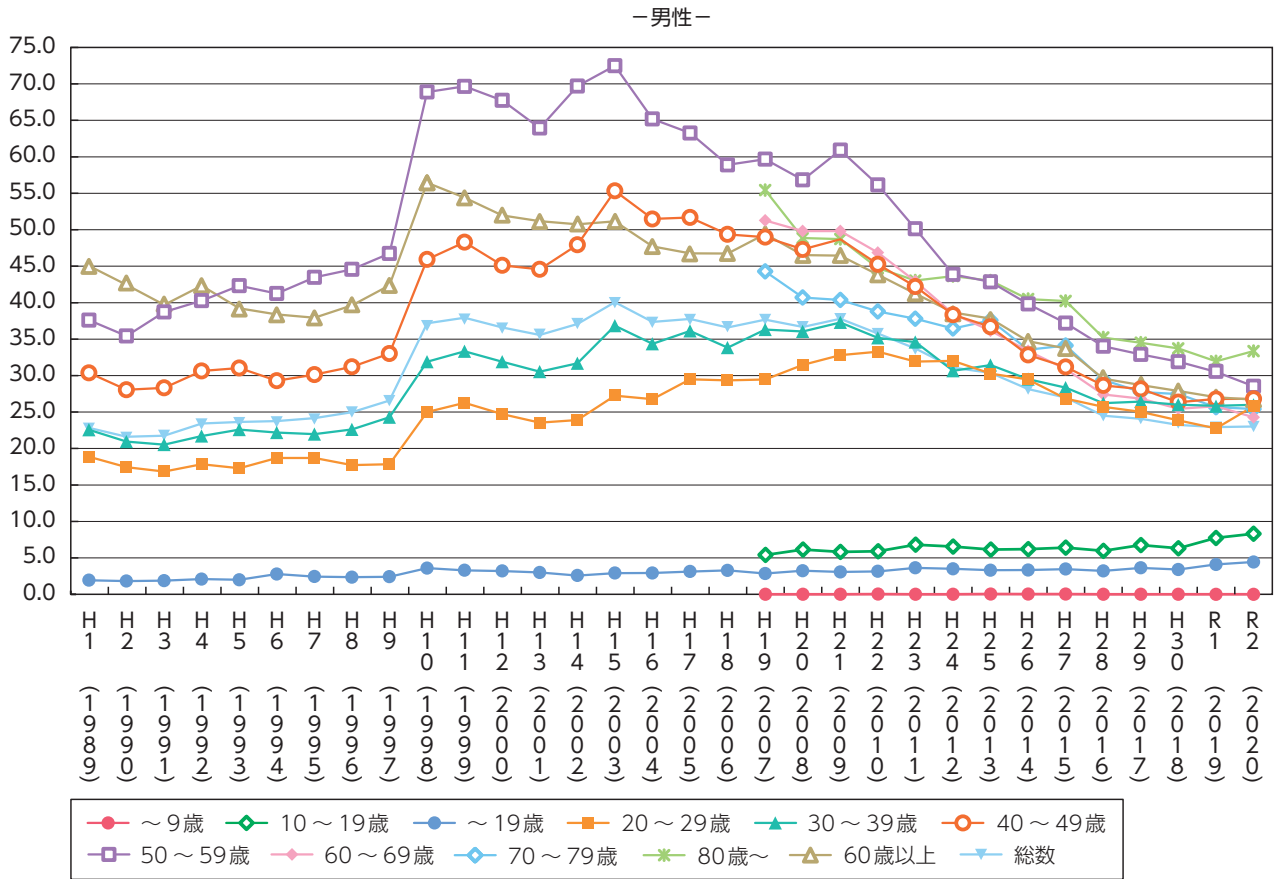
第1-5図 年齢階級別（10歳階級）の自殺者数の推移



注) 平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60～69歳」「70～79歳」「80歳以上」に細分化された。

資料：警察庁「自殺統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成





注) 平成18年までは「60歳以上」だが、19年の自殺統計原票改正以降は「60~69歳」「70~79歳」「80歳以上」に細分化された。  
 資料：警察庁「自殺統計」、総務省「人口推計」(国勢調査実施年は国勢調査人口による)より厚生労働省自殺対策推進室作成

我が国における若い世代の自殺は深刻な状況にある。年代別の死因順位をみると（第1-7表）、15～39歳の各年代の死因の第1位は自殺となっており、男女別にみると、男性で

は15～44歳において死因順位の第1位が自殺となっており、女性でも10～29歳で死因の第1位が自殺となっている。

第1-7表 令和元年における死因順位別にみた年齢階級・性別死亡数・死亡率・構成割合

### 総数

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	悪性新生物<腫瘍>	98	1.9	23.0	自殺	90	1.7	21.1	不慮の事故	53	1.0	12.4
15～19歳	自殺	563	9.9	47.8	不慮の事故	204	3.6	17.3	悪性新生物<腫瘍>	126	2.2	10.7
20～24歳	自殺	1,040	17.4	50.9	不慮の事故	311	5.2	15.2	悪性新生物<腫瘍>	158	2.7	7.7
25～29歳	自殺	989	16.9	48.1	悪性新生物<腫瘍>	246	4.2	12.0	不慮の事故	223	3.8	10.9
30～34歳	自殺	1,145	17.7	38.4	悪性新生物<腫瘍>	512	7.9	17.2	不慮の事故	259	4.0	8.7
35～39歳	自殺	1,287	17.6	28.7	悪性新生物<腫瘍>	1,091	14.9	24.4	心疾患	409	5.6	9.1
40～44歳	悪性新生物<腫瘍>	2,238	26.2	28.6	自殺	1,498	17.5	19.2	心疾患	846	9.9	10.8
45～49歳	悪性新生物<腫瘍>	4,719	49.0	33.6	自殺	1,825	18.9	13.0	心疾患	1,699	17.6	12.1
50～54歳	悪性新生物<腫瘍>	7,254	86.1	37.1	心疾患	2,572	30.5	13.2	自殺	1,748	20.7	8.9
55～59歳	悪性新生物<腫瘍>	11,738	154.3	42.9	心疾患	3,461	45.5	12.6	脳血管疾患	2,016	26.5	7.4
60～64歳	悪性新生物<腫瘍>	19,308	259.1	45.8	心疾患	5,329	71.5	12.6	脳血管疾患	2,924	39.2	6.9

### 男

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	悪性新生物<腫瘍>	61	2.3	25.8	自殺	47	1.7	19.9	不慮の事故	25	0.9	10.6
15～19歳	自殺	385	13.2	49.9	不慮の事故	154	5.3	20.0	悪性新生物<腫瘍>	55	1.9	7.1
20～24歳	自殺	748	24.4	52.3	不慮の事故	235	7.7	16.4	悪性新生物<腫瘍>	97	3.2	6.8
25～29歳	自殺	683	22.8	49.8	不慮の事故	173	5.8	12.6	悪性新生物<腫瘍>	131	4.4	9.5
30～34歳	自殺	865	26.2	44.1	悪性新生物<腫瘍>	207	6.3	10.6	不慮の事故	195	5.9	9.9
35～39歳	自殺	961	25.8	33.7	悪性新生物<腫瘍>	421	11.3	14.8	心疾患	317	8.5	11.1
40～44歳	自殺	1,127	26.0	23.1	悪性新生物<腫瘍>	878	20.2	18.0	心疾患	649	14.9	13.3
45～49歳	悪性新生物<腫瘍>	2,019	41.3	22.9	心疾患	1,335	27.3	15.2	自殺	1,319	27.0	15.0
50～54歳	悪性新生物<腫瘍>	3,476	81.7	27.5	心疾患	2,082	48.9	16.5	自殺	1,264	29.7	10.0
55～59歳	悪性新生物<腫瘍>	6,407	168.2	35.1	心疾患	2,812	73.8	15.4	脳血管疾患	1,418	37.2	7.8
60～64歳	悪性新生物<腫瘍>	11,950	324.5	40.9	心疾患	4,203	114.1	14.4	脳血管疾患	2,119	57.5	7.3

### 女

年齢階級	第1位				第2位				第3位			
	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)	死因	死亡数	死亡率	割合(%)
10～14歳	自殺	43	1.7	22.6	悪性新生物<腫瘍>	37	1.4	19.5	不慮の事故	28	1.1	14.7
15～19歳	自殺	178	6.4	43.8	悪性新生物<腫瘍>	71	2.6	17.5	不慮の事故	50	1.8	12.3
20～24歳	自殺	292	10.1	47.7	不慮の事故	76	2.6	12.4	悪性新生物<腫瘍>	61	2.1	10.0
25～29歳	自殺	306	10.7	44.8	悪性新生物<腫瘍>	115	4.0	16.8	不慮の事故	50	1.7	7.3
30～34歳	悪性新生物<腫瘍>	305	9.6	30.0	自殺	280	8.8	27.5	不慮の事故	64	2.0	6.3
35～39歳	悪性新生物<腫瘍>	670	18.6	41.2	自殺	326	9.0	20.0	心疾患	92	2.6	5.7
40～44歳	悪性新生物<腫瘍>	1,360	32.4	46.5	自殺	371	8.8	12.7	脳血管疾患	199	4.7	6.8
45～49歳	悪性新生物<腫瘍>	2,700	56.9	51.7	自殺	506	10.7	9.7	脳血管疾患	425	8.9	8.1
50～54歳	悪性新生物<腫瘍>	3,778	90.5	54.8	脳血管疾患	530	12.7	7.7	心疾患	490	11.7	7.1
55～59歳	悪性新生物<腫瘍>	5,331	140.4	58.5	心疾患	649	17.1	7.1	脳血管疾患	598	15.7	6.6
60～64歳	悪性新生物<腫瘍>	7,358	195.3	56.9	心疾患	1,126	29.9	8.7	脳血管疾患	805	21.4	6.2

注) 構成割合は、それぞれの年齢階級別死亡数を100とした場合の割合である。

資料：厚生労働省「人口動態統計」より厚生労働省自殺対策推進室作成

こうした状況は国際的にみても深刻であり（第1-8表）、若い世代（10歳代及び20歳代）で死因の第1位が自殺となっているのは、先進国（G7）では日本のみである。

なお、10歳代では、アメリカ及びカナダの死亡率が日本よりも高くなっている。また、20歳代では、アメリカの死亡率が日本と同程度となっている。

**第1-8図 先進国の年齢階級別死亡者数及び死亡率（10歳代及び20歳代、死因の上位3位）**

10歳－19歳																	
	日本 2018				フランス 2016				ドイツ 2018				カナダ 2016				
	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	
第1位	自	殺	602	5.4	不慮の事故	412	5.2	不慮の事故	334	4.3	不慮の事故	276	7.0	自	殺	232	5.9
第2位	不慮の事故		304	2.7	悪性新生物	180	2.3	自	殺	192	2.5	自	殺	232	5.9		
第3位	悪性新生物		225	2.0	自	殺	152	1.9	悪性新生物	190	2.4	悪性新生物	104	2.6			

	アメリカ 2017				イギリス 2016				イタリア 2017				韓国（参考） 2019					
	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率		
第1位	不慮の事故		4,790	11.5	不慮の事故	329	4.4	不慮の事故	302	5.2	自	殺	298	5.9	自	殺	298	5.9
第2位	自	殺	3,005	7.2	悪性新生物	198	2.7	悪性新生物	192	3.3	不慮の事故	139	2.8	不慮の事故	139	2.8		
第3位	他	殺	2,002	4.8	自	殺	165	2.2	自	殺	85	1.5	悪性新生物	109	2.2	悪性新生物	109	2.2

20歳－29歳																	
	日本 2018				フランス 2016				ドイツ 2018				カナダ 2016				
	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	
第1位	自	殺	2,104	17.7	不慮の事故	1,030	13.8	不慮の事故	754	7.8	不慮の事故	1,071	23.6	自	殺	609	13.4
第2位	不慮の事故		571	4.8	自	殺	575	7.7	自	殺	714	7.3	自	殺	609	13.4	
第3位	悪性新生物		400	3.4	悪性新生物	380	5.1	悪性新生物	409	4.2	悪性新生物	201	4.4	悪性新生物	201	4.4	

	アメリカ 2017				イギリス 2016				イタリア 2017				韓国（参考） 2019					
	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率	死	因	死亡数	死亡率		
第1位	不慮の事故		22,111	49.9	不慮の事故	1,211	13.8	不慮の事故	727	11.6	自	殺	1,306	19.2	自	殺	1,306	19.2
第2位	自	殺	7,815	17.6	自	殺	741	8.5	自	殺	301	4.8	不慮の事故	357	5.3	不慮の事故	357	5.3
第3位	他	殺	6,114	13.8	悪性新生物	466	5.3	悪性新生物	290	4.6	悪性新生物	283	4.2	悪性新生物	283	4.2		

注：1) 「死亡率」とは、人口10万人当たりの死亡者をいう。

2) 死因順位の分類は人口動態統計と同様、死因簡単分類表を用いた。

3) アメリカ・カナダの人口は世界保健機関資料より最新データが得られなかったため、最新の死亡データに合わせて各国の国勢調査データを利用した。

資料：世界保健機関資料（2021年4月）より厚生労働省自殺対策推進室作成